

東京都立調布特別支援学校の  
防災教育チャレンジプランへの  
取り組みとその成果

東京都立調布特別支援学校

取り組み

- 教職員、保護者、地域などの各組織を活用し、特別支援学校における児童・生徒の「防災・安全教育」を推進する。
- 隣接する国立大学、市立小学校及び地域とで役割分担・整理し、「地域全体での危機管理機能の向上」を推進していく。

総合防災訓練(9月26日実施)

ねらい

- ① 実災害を想定して、児童・生徒が引渡しまで一ヶ所に滞在する経験をする。
- ② 親子で避難所の雰囲気を経験する。
- ③ 実災害を想定して、児童・生徒が滞在中で、引渡し場所、(福祉)避難所、帰宅支援ステーションなどの設営にボランティアを利用する。

実践報告1

・小学部1年生 生活単元学習「歩行」

ねらい

- 災害が起きたときに集団で避難する事を想定し、校内歩行を通して友達や先生と集団でまとまって静かに歩くことを経験する。
- ・避難訓練時にも使用されている「おさない・はしらない・しゃべらない」を肯定語に置き換えて伝えた。



みんないっしょに



しずかに



あるく

日常生活の中で、身につけておくこと

- ・教員の指示を聞いて、行動すること
- ・集団でまとまって、行動すること
- ・肯定的な指示をすること
- ・シンボルやマークなど視覚的に示すこと
- ・障害の重い児童生徒も、何らかのコミュニケーション手段を身につけておくこと
- ・保存食を食べるなどの避難生活を想定した経験

## 避難訓練などで取り組んでおくこと

- ・机の下にもぐるなどを通して、自分の頭を守る経験をする
- ・防災頭巾を自分で持ち出し、被ること
- ・避難訓練時における本校でのマークやコミュニケーションボードの統一
- ・避難所を体験すること

## 「たすけてカード」

<ねらい>

◆子ども自身が「ひとりになっても」必要な情報を要緊などの救護機関の人に伝えることができることを目指す。

<内容>

◆連絡先、コミュニケーション方法、パニックなどの障害特性、アレルギー・服薬などの医療情報、身辺介助に必要な情報などをコンパクトに記載

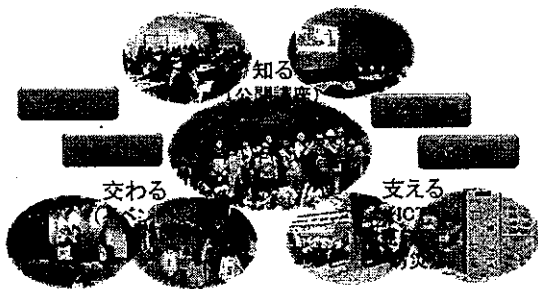
・「この子を知る人に連絡を取っていただく」

・「誰かに引き取られるまでの間、適切に保護していただく」

ことを可能にするカード

## リソース・ネットとは

調布特別支援学校の児童・生徒が安全で豊かな学校生活を送れるように応援する組織



## 防災への取り組み

- 2012/2/7
  - ・公開講座：震災時に障害のある子ども達を守るには… 3月11日の被災地、学校、家庭の様子、地域連携の必要性
- 4/26
  - ・調布市防災訓練への参加(第一小学校) 避難訓練、避難所開設の見学(学校と地域の関わり)
- 7/17
  - ・公開講座：震災時に障害のある子ども達を守るには…② 調布市の防災体制、学校・PTAの求める支援、防災ボランティア
- 10/20
  - ・調布特別支援学校総合防災訓練への協力 福祉避難所、帰宅困難者支援ステーションの設置

## 成果として得たこと

- ・「日常生活時に身に付けておくべきこと」「避難訓練時など特別に取り組むこと」を整理し計画的に生活単元学習等に防災・安全教育を組み入れることができた。
- ・リソースネットを中心とした地域住民との連携・関係が強くなり、「地域と連携した防災訓練」を初めて実施することができた。

## 今後の課題

- ・複数の組織が関連して、障害のある児童・生徒の実践的な「身を守る力」を育成する。
- ・「調布駅近辺の教育機関を対象とした防災対策連絡会」の定期開催。
- ・実災害に即したバリエーションのある自衛防災訓練の計画及び実施。